

扶桑皇統記圖會

四編

凡

~ 13
2109
19



15
2109
18

皇統記

杖桑皇統記圖會後編卷之六目錄

朱雀院朝覲御幸

時平光等謀黜菅公條

三善清行贈菅公諫書

菅公得寃被為謫西府條

三善清行天象と見て菅公小書を奉る圖

仁和寺の法皇主上と諫めあひんと宮門小立せり人圖

菅公遺千道明寺木像

菅公於配所詠詩歌

大宰府飛梅追松の條

菅公天拜山祈願并薨去

海會春彦忠實死去條

寛平法皇築雙岡

法性坊夢謁菅公亡灵條

菅公筑紫天拜山を祈願しぬ圖

洛中天裏内裡雷火

奸徒雷死法性坊行力條

時平患奇病薨去

光定國菅根薨死洛中洪水條

太宰府天満天神宮居の圖

菅公贈官賜神号

延喜帝御讓位四海太平條

扶桑皇統記圖會後編卷之六

浪華 好華堂野亭参考

朱雀院朝觀御幸

時平光等謀黜菅公條

左大臣時平の不徳引替て右大臣道真公朝家と重んじ忠勤公勵むる

小より上皇并殊更小菅公を御具員小思召常小朱雀院召れて政事筆を

行幸しぬ時菅公供奉しぬ手向山東大寺の南を通りぬ時の御奇小

此のびまぬさむよりあむ手向山とぞ錦神乃まに

と縁のり歌の意ハ縁下り小道くの神小手向る後帛とて五色の帛とて裁て用

意すむれぬ此度ハ大切なる太上天皇の供奉ぬれぬ道真を私の後帛ハ用意し

此山の紅葉を道祖神の御隨意小道真が手向する後帛と覽ぬて鋼を



自らとなり。是庁時も君の守護を怠り、おの忠勤の意と一首の中心を意のひし。御
歌もれを上皇も深く感し、思ひのゆく道真公を愛し、ひ至上の御勅有る。丞相の位
小進めありあり。斯て昌泰三年正月三日至上朱雀院、朝觀の御幸あり。ひ左
大臣時平右大臣道真公其餘の臣下も供奉せしむ。上皇御怡斜あり。至上と
御土器とよりふませのひ御酒宴ありて睦く御物語り。ひ多る序の上皇宣ひ
か。當時左大臣時平と右大臣道真と相並て朝政を執行せしむ。好みはれども
遂小きくらの逆も更出来ぬ。思ひの時平ハ故基経の子なり。年若く才短き上
不良行ひ有り。其まあり。道真も年高、當時の俊才。天晴棟梁の臣と稱せし
され。時平が執政の職を止道真ハ関白の職を授け一人して万機の政を執行せしむ。後
天下永く太平ありと仰る。至上実中と思召菅公入を御前召出。ひ以後
と卿一人して朝政を執行の四海の安寧とをより。ひと西君ひく。勅詔なり。ひ関白の

職の任ずる。ひ宣ひされ。菅公大に驚れ。ひと御身も冷汗を流され。御常中ハ
我替代の権臣時平と超て関白職とあり。必ず元龍の悔有下とて。君前小低頭し
ひの君申誠の忝あり。ひも。臣儒官の卑れ家より出て右大臣の高位を汚し。ひ恐
まわれ。二度表を奉りて宣と解せむ。更を願ひなれ。ひも許し。ひと天
畏悼。ひ況関白職と賜らん。ひの勅詔存。ひも。ね御更。ひ斯てハ左府と先
歴の貴族達君と恨む。ひ朝庭の乱の端も成。ひ。此義ハ幾重の勅詔あり
ひ。ひと固く御辞退。ひ。ひ至上。ひ。ひ本意なく思召。ひ。ひ
ひ承引。ひ。ひ色目あれ。ひ。ひ関白任官の義止。ひ。ひ道真公。ひ。ひ西君。ひ。ひ
臣一人を召。ひ。ひ更を。ひ。ひ左府。ひ。ひ下。ひ。ひ異。ひ。ひ疑。ひ。ひ其疑念と解せむ。ひ。ひ
詩の御題を給。ひ。ひ願ひ。ひ。ひ至上。ひ。ひ実中。ひ。ひ思召。ひ。ひ春生。ひ。ひ柳眼中。ひ。ひ
題をど給。ひ。ひ官公。ひ。ひ右の御題を頂戴ありて。ひ。ひ君前。ひ。ひ退。ひ。ひ公卿の詰所。ひ。ひ

今日道真を召れり詩の御題を給らん御更なり列位此御題にて詩を
作り天覧小具らるるなりと右の題を披露ありしを備へ其御更にていよとて
皆詩を賦して睿覧小備られり此日公卿の面へ禄と下されり世臣公へ別
小創録の外兩皇并小后官より御衣を被けり時平是を以て深く管
公を妬といふ賜公燃されり同年八月菅公祖父清公卿父是善卿の文
章を集御自作の文章も加へ三代の家集都て二十八卷十卷世臣公集十卷之
是を編て朝廷へ献じり帝睿覧がりて御感の余り小御製をの
詩をぞ賜りける其御詩小曰

門風自古是儒林 今日文華皆悉金 唯詠一聯知氣味
况連三代飽清金 琢磨寒玉聲々麗 裁制衣餘霞句々侵
更有管家勝白練 從茲拋却画塵深

帝如皇菅公を重んじ御賞美在と不付て左大臣方の人へ愈妬と憎れ
る昌泰二年十月十四日上皇小仁和寺の益信僧都と戒師とて御髪を落
させり法の御諱を空理と号しりて即ち仁和寺小御室を建させ入御
ありて専ら真言の法を行ひすなり是より世人仁和寺とて御室と
を稱しり抑仁和寺とて字多上皇いよ御在位の時脚父光孝天皇の御
菩提の爲大内山の麓小寺と御建立ありて光孝帝の御宇の年号を以て
仁和寺と寺号しり益信僧都と任侶とて真言宗を立りて去程小
帝八御年の長ドの小隨ひ万機の政正しく臣下と恤り万民を撫育りて
母の子と安んずるが如かれ四海綿綿うして逆乱の浪起る更なり冬
頃寒風殊更小厲しれを女官別小綿厚衣脚衣を献りける帝曾て着
むる世の中の貧乏民はる寒夜も衣薄く凌死るぬを朕今帝位と

踐ふむとしも独ひとり衣いを籠かみて身みを温あつくすむあららずして御ぎ簾れんの外そとに出いづ

わひ一首の御製衣を詠えいどもり其御製衣曰い

おろくぬれ袖そでこそふる世よの中なか乃な寒さむく民たみは冬ふゆの夜よあ

く難あや有あ仁に君きみかれを未ま代しろも延えん喜ぎの聖せい帝ていと争あせりおほく帝てい尚なほ御ご幸さい若わか

く御座ごを定さだ四よ菅かん根ねの侍さむらひ臣しん君きみ小こ勸すすめり古いにしへの賢けん王わう巡めぐ狩かりと

号ごう一いつ春秋しゅう小せう田でん捕ぼ一いつ民たみの艱がい苦くと察さつ一いつ行こう旅りょの難なん易いを量をはるはと云いふ君きみも万まん

民たみを撫な育よくせんと思お食くを宮みや中なかの小せう乃な御座ごをまんとす折まり山さん野やへ御ご狩かり乃な

幸さいなりぬ農のう民たみ們らが耕かう耘りんする辛しん苦くを磨あららせりと云いふ巧たくまかして

奏そうすれを睿えい知ちの帝ていも兩りやう人にんが不ふ正せい引ひをいふと謀まうる侍さむらひ言いひありと知ち食くず

實じつもと思お召めい定さだ四よ菅かん根ね希まれ世よ下かみを召めい具ぐ一いつのひて神かみ泉せん苑えんへ鷹たか鳥とり狩かりの御ご幸さい

わひの鷹たか鳥とりと放はなせ鳥とりとて御ご入い真まあり御ご酒しゆ宴えんを催もよほすのひたる所ところ小

鷺さぎ一いつ羽う飛と来きりて池いけ下したり魚いさなを求もと食くれを帝てい甚おまを真ませをひ左ひだり右みぎの近ちか臣しん

彼あの鷺さぎ鳥とりを捉とらへ命いのち多おほく小せう臣しん下した勅ちやく詔みことことばを奉ほうり西さい三さん入い庭ていへかり五ご洲しゅう崎さきの岩いわ窪くぼ小

隠かくれても寄より鷺さぎ鳥とりを捉とらへせ小せう鷺さぎ鳥とりかゝる池いけの深ふかく游あそぶ行ゆ更さらも手て乃な届とど

うさる追お遠とほ去さり己おのれ小せう羽う飛と来きりて飛と来きりて多おほく人ひとの臣しん下した声こゑをけやよ鷺さぎ鳥とり

勅ちやく余あつかりと云いふ汝なれ生なままて己おのれと捉とらへれ趣おもむを語かたりぬ小せう菅かん公こう色いろを正ただしむ城しろ

手て近ちかくより小せう臣しん安やすくと捉とらへて帝ていの玉たま座ざ近ちかく参まゐりて睿えい賢けん小せう供ともへる

君きみ深ふかく愛あいせむひ鷺さぎ鳥とり五ご位いの位ゐを賜たまひたり是これより世よ人ひと五ご位い鷺さぎ鳥とりと称なづ初はじめ

を。然しかる折せりも菅かん公こう入い来きりぬ帝てい龍りゆう顔がん麗れいく玉たま座ざ近ちかく召めいれ只ただ今いま鷺さぎ鳥とり

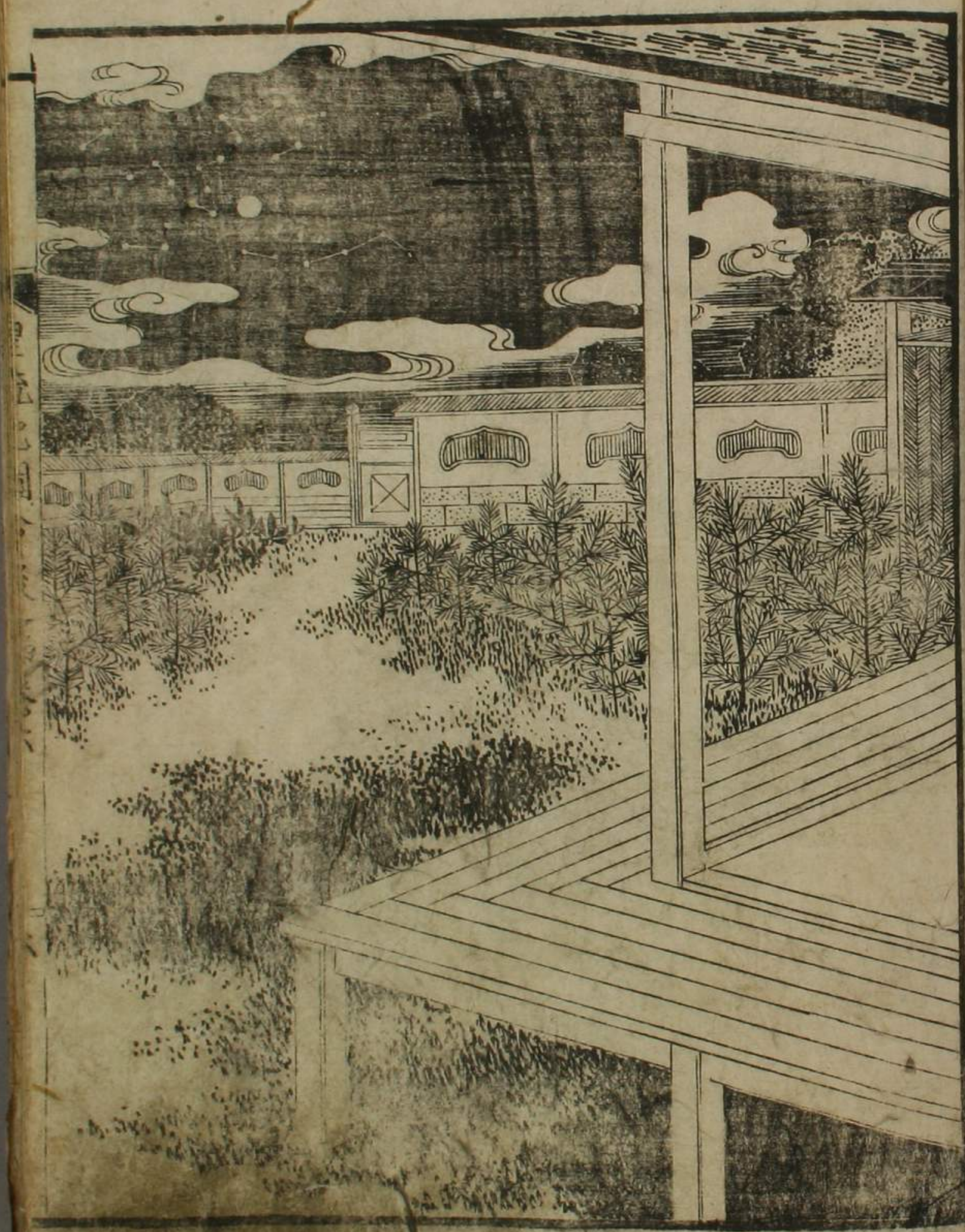
勅ちやく命めいかりと云いふ汝なれ生なままて己おのれと捉とらへれ趣おもむを語かたりぬ小せう菅かん公こう色いろを正ただしむ城しろ

亦また一いつ天てんの君きみの勅ちやく詔みことことば鳥とり類るいも多おほく畏おそりなる更さら是これの如ごとく況いはん万まん民たみ小せう於お於おて君きみの龍りゆう鳥とりの

向むかふ所ところの者ものハ心こゝろを畏おそんで農のう民たみ耕かうを止とめ縁えん人にん杖つゑを止とめ自みづか然ぜん下したの障さやりとかり患うれひ

を生むる基おいて。勿論昨年殺生を禁じ。田獵を止む。今年鳥獸小
何の科のや。一旦出のひ。倫言汗の如く再び及ず。鳥類も不信を示
し。も。後。御狩の御幸と御止を有。練奏のひ。帝理
小責れて赤面。御酒宴も止りて還御。定國管根等
案小相違。又左大臣の館集會。兎も角も道真在て。更の妨り。何
もして追退んと奸計を商議。是。思。練。得。此。陰
陽寮の輩小咒殺。勅宣かりと偽り財宝と尋く。子。所有。眞。衆。を
冬。菅公の形代を作て。王城の八方。專。彌。伏。を。神。
非禮と受。兎も。兎。術。更。其。論。か。り。り。り。
二善清行贈菅公諫書 菅公得免被謫西府條
昌泰三年秋七月彗星現る。諸人仰れて大不。此星出る時。兵革

起。此頃左大臣殿と右大臣殿と御中睦まじりと風貌せり。是。の。更
よ。世の強。出。未。前。表。や。と。危。合。り。蘇。文。章。の。博。士。三。善。清。行。と。云
今。先。祖。百。濟。王。の。後。瀛。中。僧。淨。藏。貴。所。の。父。カ。リ。清。行。博。学。多。識。有。る
上。天。文。曆。道。小。達。せ。り。名。士。カ。リ。る。彗。星。を。望。み。て。以。小。謂。曰。今。彗。星。現
り。と。公。て。世。人。兵。乱。の。起。る。必。然。也。と。疑。ひ。危。ふ。む。と。も。非。か。り。彗。星。ハ。其
年。小。因。て。吉。凶。定。め。ば。今。年。の。彗。星。ハ。兵。革。の。兆。ハ。非。ず。恐。く。ハ。是。朝。廷。の。大。臣。小。禍
ひ。有。り。兆。也。夫。小。就。て。熟。考。る。今。右。大。臣。道。真。公。徳。家。より。抽。で。ら。れ。て。二。公
の。高。位。小。登。用。せ。ら。れ。る。六。素。リ。眞。身。の。賢。徳。小。因。と。も。あ。れ。も。左。大。臣。時。平。公。其。身
の。不。徳。を。顧。ず。平。日。小。菅。公。と。忌。嫉。む。色。有。り。斯。て。公。管。公。終。小。佞。臣。の。類。也。其
く。め。小。災。害。御。身。小。及。ぶ。一。當。時。主。上。聖。智。小。在。せ。も。い。や。御。若。年。あ。り。り
菅。公。朝。廷。を。退。け。ら。れ。る。朝。家。危。る。事。我。菅。公。と。深。く。交。る。ゆ。ゆ。あ。れ。る。



三善清行
天象
見
菅公の書
奉
つ
ふ

三善清行

三善清行
會
後
卷
六

五

賢相の危殆を他ふんん忠臣の所行あらず。依て書と菅家へ贈我素意
を表さんとして自身文章を綴り口人を以て菅家へ贈れり其文曰

交浅うして結深死ハ女也今小居て来と結、誕也妾誕の責、まふり能
知と以とも心小思入事と述ざる不信也清行、天文を窺、更を得、

今年、彗星の現るハ朝家の大臣小禍有るハ兆也且明年、辛酉、天
命と革むる年なり。されば朝廷、物革る更、最、天、幽微、て維

身小禍、有る、も定め難、も尊君、翰林より、提られて、今、槐位、昇
皇孫外戚の、よ、ま、更古より、吉備大臣の外有事、夫、高木、風、小、悪

ま、あ、疾、丞相の官を、辞し、先定國等の下位、就て、其禍を、避む、
朝家の幸福、何、更、是、小、過、を、伏、願、其、微、情、と、察、し、あ、恐、惶、

稜、首、と、書、す、る。菅公、清行、が、練、書、を、披、見、あり、て、其、深、情、を、悟、ひ、ひ、れ

如何思、る、人、官、と、辞、せん、も、あ、る、多、其、伏、小、過、の、ひ、り、是、より、前、小、左、大
臣方の、佞、臣、們、の、菅、公、と、咒、咀、調、伏、し、れ、も、其、驗、な、れ、む、又、先、定、國、菅、根、ホ

佞、古、と、逞、う、て、帝、へ、換、奏、し、る、道、真、義、已、が、女、の、婚、を、齊、世、親、王、と、帝、位、小
即、其、身、外、戚、の、威、と、震、ひ、富、貴、を、極、ん、上、皇、小、より、入、專、君、の、御、行、跡、と、惡、様

小、讒、し、い、更、隱、か、い、道、真、が、齊、世、親、王、を、世、小、思、ふ、六、朝、夕、の、更、小、い、守
上、皇、い、す、が、御、在、位、の、時、春、宮、君、密、作、を、讓、り、ま、い、と、道、真、御、内、勅、あり、

節、道、真、遮、て、是、を、止、り、ま、り、也、上、皇、も、渠、が、邪、弁、小、惑、さ、れ、り、御、讓、位、の、義、と
止、り、ま、り、是、婚、の、齊、世、の、君、と、帝、位、小、即、ち、あ、る、下、心、の、更、頭、也、也、也、也

其、後、群、臣、小、御、讓、位、の、義、を、問、せ、り、小、春、宮、御、受、禪、あ、る、更、理、の、當、也、也、也、也
い、と、群、臣、二、日、小、啓、奏、し、る、由、道、真、も、申、妨、る、更、態、す、俱、小、衆、議、小、順、ひ、君、御、讓

位、か、り、ま、り、と、羨、せ、り、其、内、心、を、深、く、憤、り、内、君、を、綱、伏、し、ま、り、い、り、風、小、風

説もばえいゝんが跡形もあれと交々奏し加之あむと后皇ハ時平の妹も在
 せむ左府局長も多く賄賂を文如是くヤセと命ぜられしを局長身小
 得の付と悦び審小后皇小終言々多かる右大臣殿の御妻婚君さる齊世親王を
 天位小即すあせんと帝と兎咀崩御かきせんと巧もゆす急死帝へ其由
 を奏し又信より言上多かる后皇ハ御年若く素り弁かた女性御妻成
 む大におびたれり帝へ局の中せ趣を内奏あり右大臣と退けり時平御勤
 ありたり如此内外の終奏度重りたれども聖明の帝も始ハ信ト云さるるが
 後ハ少御疑ひの慮慮と生れり具御遊興御狩を不付て菅公度々練
 むひの菅公と疎くもとされども御慎深た御本性あれも猶色も露る玉子
 何の御沙汰もなかりたれり時平と首と一味合射の倭臣ハ登と隔て足を掻心地
 一多斯て昌泰三年も暮明も四年小改元ありて延喜元年と曆号し其其年

の正月元日小日蝕一多る左府時平及び光定國以下大小悦び浪波道真と退
 くゆれ時節至来せりと兼て巧と殺する主上調伏の形代を納る菅と東山乃將
 軍塚の辺より掘出所の者より辨出と偽り帝の睿覧ハ入終奏一多る
 東山よりる兎咀の形代を掘出しとて彼所の里民より差出しと檢見ハ恐
 る多君を調伏する由の願書と管い最難とも姓名ハ不記ハとも必定道真が
 所為もてい前以て道真が野心を企て義を奏聞ハ及びハとも君いす信ト
 むす己小當元日小日蝕ハも天子ハ凶変を示し所小陰陽寮の者乃勘
 文も元日の日蝕ハ大臣君を侵と凶兆ハてハ天子の御身ハ深た御慎と在す
 るれり奏達仕り此ハ早く道真を退けり以て凶害を禳ひりと命
 舌巧小奏一多る帝ハ先頃より倭臣の終奏もて御疑念と生下りハ士女御
 よりも時菅公と退けり内奏ありり浸潤之譜遂小行ハと層

受の想忽ち小威さし明智の帝も元日の日蝕といひ調伏の形代を御覽ありて
睿慮暗して大糸逆鱗在し。然る六道真及び四人の男の宦を損して遠嶋へ
流罪せし。齊世をも洛飾せし。倫命と下し。時平奉り。斐成り
と独笑して君前を退れ。光定國管根清貫希世ホの奸徒小勅詔の趣を
せし。小笑坪小入急小宣命と書記させて大納言清貫と勅使と。解官瀆罪
の上と菅家へ遣し。無道なり。時小菅公へ。凶要有と。知事
御参内あり。己小衣冠を看し。所小俄小大納言清貫宣命と捧て入来
り。小菅公涙り。俄の宣旨何事小や。御不審暗玉。小早速客殿
結入来の旨と問ひ。清貫菅公小對ひ。主上貴卿小御不審の義。御座
ます。右大臣の宦位を剥。太宰権師小任され。筑紫へ左遷せられ。小四人の子
息達も解官して遠嶋へ移す。最格別の御仁心を以て。女性方

御咎。難有倫命の趣を拜聴せられ。宣命と捧げ。續其文意を
右大臣菅原道真義莫大の朝恩を忘却。我婚する齊世を帝位小即其
身外舅の威と恣小せん。為隠謀と企朕と調伏せんと謀る。其罪死刑小行ふ
られ。先帝の御急臣とて。以て死罪一等と免。右大臣の宦位を削り
太宰権師と筑紫へ左遷せしむる者なり。小長男右大井高恒。土佐國次
男式部大丞景行。佐渡國三男藏人景茂。讃岐國四男秀茂。敦茂。伊豫國谷
解官。配流せしむ。菅公大不登れ。是左大臣及び光定國等が
絶奏小依て。小聰敏の明君も信吉小惑され。事多れ。道真小罪を浴小
はる。是天かり命なり。歎息し。為方なく。宣旨の趣を奉り。小
わく。小清貫ハ。白尔罪名極る。六疾。配所。赴く。准備せし。と。小
小言捨笑を合で。其後。菅公の御墓所。先。御子息。遠嶋。右

女房達家士嶋田忠臣田口辰吉渡會春彦あんど夢小夢人かく。是ハ如何の
勅詔とや。一点も曇るた御身小くる無実の罪と負せり恨のさよと泣き声鏡
の内小充満より忠臣辰吉春彦亦堪らぬて菅公小向ひ君斬の御過申在まぬ
小くる無実の罪名を称られぬ。後者の所為ある更鏡小くげられぬ。頭公より何
也一應も再應申御陳謝なり。疾く御参内ありて御身小罪無しを款
奏わしめ。某們隨從。君後人們妨げなかりて。小斬て捨不敬の罪を身
小引受其場小て自殺仕まると言上ると菅公制のひ予素り後者の所為也
と公疾知と。倫言汗の如く出て再び及る。命小あらず。道真が無失の罪小論
む。更奸徒の誘。奏小依と。も也。とも。見定業かり。其故。往年。渤海使。斐
頰。予と相。曰。後年。必ず。位三。余。進。登。り。無。も。久。く。高。位。小。居。お。ぬ。禍。ひ。其。身。小
及。ぶ。と。果。し。と。其。言。の。如。く。不。肖。の。道。真。先。帝。の。廢。慮。小。協。ひ。追。く。小。位。階。と。進。り

のひて。遂。小。三。公。の。高。官。を。授。け。り。予。君。命。の。忝。た。を。以。て。且。槐。位。と。汚。せ。し。も。相。者。の
誠。を。想。ひ。一。月。ま。て。三。度。申。上。り。表。と。ま。り。て。官。を。辞。り。れ。し。も。主。上。の。上。皇。も。敢。て。許。し
あ。ら。ず。小。依。て。未。終。小。禍。ひ。の。身。小。及。ん。更。を。知。り。とも。君。忠。を。重。ん。ど。今。日。と
三。公。の。高。位。小。居。り。去。年。三。善。清。行。太。文。を。考。へ。予。が。災。害。小。遭。ん。更。を。先。知。し。練
書。残。贈。て。官。位。を。辞。せ。よ。と。勸。り。とも。已。先。年。三。度。辞。表。を。奉。れ。し。勅。免。あ。た
上。公。今。更。身。の。禍。ひ。を。免。れ。ん。と。て。君。忠。を。顧。ず。身。の。安。逸。を。計。ハ。忠。臣。小。あ。ず。と
所。存。と。定。め。清。行。が。練。を。も。捨。り。ど。り。此。身。の。無。実。の。罪。小。沈。む。更。ハ。素。り。定
ま。る。天。命。な。れ。を。誰。と。怨。む。誰。を。悪。む。を。た。ぬ。道。真。無。実。の。罪。小。論。じ。む。た
天。數。か。ん。む。誘。者。蘇。秦。張。儀。の。舌。を。借。て。君。小。幾。懇。す。とも。何。と。道。真。を。配
所。の。新。嶋。寺。と。あ。す。更。を。得。ん。や。又。王。も。美。里。小。七。年。囚。れ。孔子。も。三。月。陳。蔡。小。困
まれ。り。聖。人。さ。く。時。の。不。肖。小。免。れ。む。と。況。や。凡。庸。の。道。真。小。於。也。や。你。達。が。忠

義の志、小喜多れも、右十皮す、く、あれを、忝肉と、歎奏する所存なりと悟り、
まりむひ、脚言、小嶋田田渡會を、其の、難くも、及、なむ、死、約、む、た、く、皆
無念、乃、涙、ふ、れ、て、と、居、り、り、去、程、小、門、年、正、月、廿、五、日、上、卿、小、大、納、言、菅、根、藏、吏
小、右、中、弁、希、世、時、平、の、下、知、を、受、檢、非、違、使、の、下、司、者、督、長、小、異、の、張、典、五、挺、昇、せ
菅、家、小、到、り、て、發、足、を、せ、り、と、多、る、菅、公、を、兼、て、期、の、ひ、り、吏、カ、れ、む、右、大、臣、乃、衣
冠、を、脱、捨、自、其、狩、衣、烏、帽子、と、著、て、脚、臺、脚、子、息、方、姫、君、達、と、別、離、の、土、哭、と、酌
り、の、ひ、た、る、づ、流、石、無、実、の、罪、小、沈、と、思、愛、の、妻、子、と、生、別、の、身、を、悲、し、む、ひ、一首、の
和、歌、を、詠、り、の、渡、會、春、彦、を、脚、使、小、仁、和、寺、小、在、す、法、皇、小、献、り、脚、歌、小、曰
た、が、ん、行、こ、が、身、漂、屑、と、あ、ら、ね、も、君、柵、と、わ、り、て、と、く、免、よ
春、彦、是、を、給、り、て、泣、く、仁、和、寺、の、脚、所、赴、り、菅、公、嶋、田、忠、臣、小、脚、臺、所、姫
君、達、の、脚、衣、抱、の、義、を、死、し、の、脚、身、八、田、辰、音、を、隨、從、と、張、典、小、乘、り、ひ、れ、む

四人の脚子息も愁然として各張典へ乗のひ多る是を見のひ脚臺姫君を告て
よくと泣伏のひ女房達緒士奴隷婢女いづる迄脚別を悲して哀慟する天や別
離の中生別を悲したわすと古人の言んぬ今人の身の上思ひ合られ心あれ下
官駕車丁も不覚小袂を沾り多増てや菅公の脚心中さごと悲しむのふを多れも
さう氣あれ脚顔色も涙の色も見えむわ脚心中と推量り泣ぬ人を無りさう
斯く駕車丁們思ひく小五挺の張典を昇上て館の門外立出れを菅根希共左
大臣の館へ唄り五挺の真由五方小別とて昇行り多るを菅公脚左遷の憂情と
述のひ一十八韻の脚詩の中も聞人腸と筋想せし
自從勅使駈將去 又子一時五所離
口不能言眼中血 俯仰天神与地祇
呼悼いふ仁明文徳陽成光孝宇多の五帝小事忠勤急なく朝政の為小

嘯を吐くひ一忠臣も忽ち幾舌の爲小無辜して左遷の客と成りしを是非か
実や古人も蕞爾茂んとすれど秋風是を破り日月明あんとすれど浮雲是を掩
と賦し又人君治人と吏を願を倭臣是を乱すと云んぬ今延喜の御体思ひ
合されたる菅公無実の罪を得りて左遷されしより吏と洛中洛外の人民皆復て
大い孩た今の世菅丞相居をばんと朝廷の政乱と世々暗闇小等しうるを
貴賤老若とも強だ惑ひ左大臣止り右大臣流されしより以て右流左止くと云
聖言リ今この世まで心憂とせり吏を右流左止と云ふ此言の遺るなり穢小
末代まで賢王と称せしれより延喜の帝も菅公を左遷しゆへ八御一代り御
過小て在り多し是は且れ菅公二月朔日小任列館を出りて夢路を刺る
御心地小て駕も列も張典洵と都の街通せしを老若男女路の両
辺小充滿と御餘波を惜み涕泣む声街小亮り情を志しぬ下吏們妨小成

者を苦懲し追もひ已小五條坊門西洞院を通り多し此所小紅梅殿とて菅家
御別館有るれど菅公看督長を召し苦く予を少時別館へ三寄まりた
し仰る小長情ある者小て領堂一都を小子刻九ツ限り小出進せよと命
令とていひし宵の程小苦く予をいとて典を昇居て入り多し小菅公大い
御喜悅あつち通せし思ひ多し思ひ多し御其室所姫君達も今一度の御對面
を願んとて昼より紅梅殿へ来りし御通行を待とりしより吏なれ不得出で公
乃御狩衣小とち種り左右の御言もな面小声を放て泣く菅公泣けり思ひ
制しゆひて思ひきや你達小此所小て再び對面せんかとて今更心塞る心地し何
是と御物緒ありて不覺時を侵しゆひし然小不思議なりなる洛中の寺院の僧
徒菅公今夜九ツ時限り帝都を出りて傳聞雜言合さしと九ツの鐘を撞き加
之を守御名残惜まハツセツの鐘も撞きりれど教言固の官人們も夜の更るを

あつては皆何心なく坐睡て在る。六角堂東寺など。小晨朝の鐘を撞鳴。つらふ
 歩残れ眼を覚て天をえん。早東雲の頃。あふ小。大少残。つら。田口辰。息。呼。出。し
 少時の内。と仰。多。も。私。此。館。入。進。せ。り。い。早。夜。中。明。方。小。な。り。疾。く。出。さ。す。り
 中。言。上。ま。れ。と。言。る。も。衣。音。緒。と。管。公。右。の。由。上。り。れ。公。も。鐘。声。脚。心。小。徹
 一。夜。明。か。む。人。目。中。耻。し。と。脚。音。残。不。せ。ひ。も。心。強。く。出。る。脚。音。娘。君。達。を。今
 更。脚。別。の。悲。し。く。小。声。を。惜。と。泣。沈。む。七。五。の。幼。丸。姫。君。父。君。の。袂。小。植。り。裾。小。纏
 り。泣。叫。む。目。も。當。れ。ぬ。風。情。なり。公。は。是。亦。も。振。拂。ひ。ひ。て。立。出。る。小。早。明。方
 反。明。れ。脚。愛。樹。の。紅。梅。今。を。盛。と。咲。乱。公。脚。覽。し。是。を。都。の。春。の。名。残。と。思。召
 東。風。ふ。ら。む。白。ひ。と。そ。よ。梅。乃。と。那。主。なり。と。て。春。ふ。こ。そ。れ。と
 と。祿。ど。ひ。ひ。さ。さ。櫻。を。脚。覽。あ。る。小。ま。さ。花。咲。か。れ。終。の。盛。を。思。い。申。り。て
 け。け。け。花。ゆ。い。を。心。と。ね。と。あ。ふ。か。く。吹。ん。風。ふ。ら。む。と。け。て。ま。せ。よ

時を感じて。花も涙も。灑れ別を惜て。鳥も心成驚す。あふ見物皆脚心を悼ま
 しみ。春の曙の艶。あもる。満行の折。なれ。哀れ。小物悲し。覚る。ひ
 平目。管公。と。敬。ひ。親。と。睦。ひ。る。人。も。今。般。の。脚。左。辻。を。教。れ。朝。廷。を。恨。と。袖。れ。も
 流。る。左。大。臣。家。の。咎。を。怕。ま。と。脚。見。送。小。赤。も。今。あ。く。と。と。と。紅。梅。殿。と。出。る。よ
 因。小。白。北。野。天。満。堂。脚。造。管。の。後。六。角。堂。東。寺。あ。ふ。小。晨。朝。の。鐘。と。撞。む。神。殿
 大。少。鳴。動。し。ま。も。其。後。六。角。堂。東。寺。と。明。六。の。鐘。を。撞。す。と。や
 斯。て。管。公。上。鳥。羽。中。に。到。る。所。此。所。より。脚。船。小。乗。る。と。な。る。や。船。か。ら。官
 人。渡。り。都。の。官。人。と。皆。帰。り。管。公。と。脚。見。送。の。脚。親。族。脚。門。人。達。も。皆。涙。の。袖
 を。別。ち。て。帰。れ。る。其。中。小。脚。音。所。より。脚。見。送。の。使。者。と。送。り。の。ま。と。て
 君。が。す。む。や。ぐ。の。木。末。を。ゆ。り。も。隠。る。と。て。み。や。う。と。さ。う。さ。れ
 と。縁。で。脚。音。所。贈。り。ひ。と。然。る。所。小。渡。會。春。彦。喘。く。走。来。り。を。管。公。脚

覽^{らん}ど^ちに^り召^され^りの^よや^あ春^{はる}彦^{ひこ}法^{はふ}皇^{こう}の^{しよ}御^ご所^{しよ}へ^ま参^まり^まが^う歌^{うた}を^か献^{けん}り^まと^い同^{どう}人^{にん}春^{はる}
彦^{ひこ}破^や地^ぢを^や跪^かれ^りま^への^{しよ}御^ご室^{しつ}御^ご所^{しよ}へ^ま参^まり^ま御^ご禮^{らい}冊^{さつ}を^ま差^さ上^あり^まと^い法^{はふ}皇^{こう}の^{しよ}外^{がい}御^ご所^{しよ}
り^まの^{しよ}主^{しゆ}上^{じやう}御^ご幸^{しやう}若^わく^と絶^た者^{しや}の^{しよ}幻^{まぼろし}惑^{まど}され^りの^{しよ}朝^{あさ}廷^{てい}の^{しよ}忠^{ちゆう}臣^{しん}の^{しよ}道^{だう}真^{しん}と^い無^む罪^{ざい}の^{しよ}
左^さ迂^いり^まの^{しよ}薄^{うす}情^{じやう}を^あ今^{いま}の^{しよ}世^よ道^{だう}真^{しん}あ^らん^を万^ま民^{みん}の^{しよ}救^{きう}れ^り世^よの^{しよ}強^{きやう}と^い成^なれ^り帝^{てい}
と^いせ^られ^り我^{われ}子^こを^あ春^{はる}内^{ない}と^い練^{れん}め^り道^{だう}真^{しん}が^{しよ}流^{りゆう}罪^{ざい}を^あ宥^あむ^れ御^ご我^{われ}の^{しよ}隨^{ずい}ひ^ま来^きよ
と^い宣^{のたま}ひ^ま御^ご典^{てん}も^あ乘^まり^まを^あ御^ご草^{そう}履^りを^あ履^きて^あ大^{だい}内^{ない}行^{ぎやう}幸^{しやう}な^りの^{しよ}上^{じやう}西^{せい}門^{もん}より^あ入^い御^ごあり
清^{せい}涼^{りやう}殿^{でん}お^あ近^{ちか}者^{しや}の^{しよ}御^ご門^{もん}せ^られ^りと^い宣^{のたま}ひ^まも^あ左^さ大^{だい}臣^{しん}殿^{でん}の^{しよ}針^{はり}の^{しよ}相^あ見^みへ^あ敢^あて^あ御^ご門^{もん}と^い開^{ひら}く
人^{ひと}も^あ増^まて^あ御^ご祝^{しゆ}奏^{そう}者^{しや}も^あい^まの^{しよ}法^{はふ}皇^{こう}甚^{じん}く^も憤^{ふん}ら^れせ^りの^{しよ}我^{われ}何^{なに}の^{しよ}咎^{とが}あり^まと^い春^{はる}
内^{ない}を^あ拒^こむ^れや^あ門^{もん}を^あ開^{ひら}く^まを^あ待^{まち}候^{こう}と^い宣^{のたま}ひ^ま大^{だい}庭^{てい}の^{しよ}棕^{そう}樹^{じゆ}の^{しよ}下^か小^{せう}停^{てい}多^たの^{しよ}日^{にち}
の^{しよ}暮^{くれ}も^あ厭^{いと}ひ^まを^あ待^{まち}せ^りま^へに^あ和^わ寺^じも^あ御^ご典^{てん}を^あ昇^{のぼ}て^あ大^{だい}勢^{せい}参^まり^ま還^{かへ}御^ご
勸^{すす}め^られ^りも^あ法^{はふ}皇^{こう}更^{さら}も^あ用^{もち}ひ^まを^あと^い餘^よ寒^{かん}属^{じゆく}れ^り終^{しゆう}夜^やあ^らけ^り御^ご所^{しよ}の^{しよ}刺^さす

待^{まち}り^まの^{しよ}遠^{とん}御^ご門^{もん}用^{もち}す^ま祝^{しゆ}奏^{そう}も^あ人^{ひと}も^あい^まの^{しよ}法^{はふ}皇^{こう}も^あ御^ご力^{りき}なく^まと^い還^{かへ}
御^ご力^{りき}なく^まの^{しよ}滅^{めつ}ふ^れ心^{しん}を^あ御^ご妻^{さい}小^{せう}の^{しよ}御^ご門^{もん}用^{もち}す^ま祝^{しゆ}奏^{そう}も^あ人^{ひと}も^あい^まの^{しよ}法^{はふ}皇^{こう}も^あ御^ご力^{りき}なく^まと^い還^{かへ}
言^{こと}上^{じやう}御^ご暇^{げま}を^あ願^{ねが}ひ^ま是^{こゝろ}を^あ馳^ち参^まり^まと^い妻^{さい}の^{しよ}始^{はじめ}末^{まへ}と^い委^あ言^{こと}上^{じやう}も^あ小^{せう}の^{しよ}管^{くわん}公^{こう}御^ご落^{らく}涙^{なみだ}小^{せう}
狩^{かり}衣^いの^{しよ}袖^{そで}を^あ浸^ひす^まの^{しよ}法^{はふ}皇^{こう}數^{すう}あ^らぬ^ま臣^{しん}が^{しよ}左^さ迂^いを^あ憐^{れん}れ^りの^{しよ}至^し尊^{そん}の^{しよ}御^ご身^み小^{せう}泥^{でい}土^どを^あ
踏^ふせ^りの^{しよ}刺^さへ^あ春^{はる}寒^{かん}の^{しよ}御^ご禮^{らい}と^い犯^かす^まも^あ成^なる^ま厭^{いと}む^れを^あ終^{しゆう}夜^や玉^{ぎよく}膝^かと^い困^この^{しよ}あり^ま
偏^{へん}小^{せう}道^{だう}真^{しん}が^{しよ}罪^{ざい}なり^まと^い仁^に和^わ寺^じの^{しよ}方^{かた}を^あ遙^{とほ}拜^{はい}し^まの^{しよ}船^{ふね}方^{かた}の^{しよ}官^{くわん}人^{にん}の^{しよ}時^{とき}刻^{こく}移^{うつ}り^ま
あ^らぬ^ま疾^{やく}御^ご船^{ふね}小^{せう}乘^まり^まと^い急^{いそ}ぐ^まも^あり^まれ^りを^あ管^{くわん}公^{こう}春^{はる}彦^{ひこ}小^{せう}御^ご力^{りき}なく^まと^い今^{いま}の^{しよ}世^よも^ああ^らぬ^ま
予^よの^{しよ}乘^ま船^{ふね}一^{いつ}坑^{けい}紫^しへ^あ赴^すけ^りを^あ今^{いま}生^なり^まて^あ再^{また}會^あせ^りま^への^{しよ}預^よめ^め定^{さだ}め^りを^あ御^ご我^{われ}の^{しよ}故^こ御^ご帰^{かへ}
り^ま心^{こゝろ}長^{なが}雨^{あめ}小^{せう}老^{らう}を^あ養^{やしやう}ひ^まと^い言^{こと}捨^{すて}船^{ふね}小^{せう}乘^まり^まと^いの^{しよ}春^{はる}彦^{ひこ}忙^{いそ}し^ま御^ご禮^{らい}を^あ御^ご我^{われ}の^{しよ}
是^{こゝろ}何^{なに}なる^ま御^ご力^{りき}なく^ま抑^{おさ}君^{きみ}御^ご出^い生^{せい}の^{しよ}昔^{むかし}より^あ今^{いま}自^{みづか}ら^あ追^おひ^ま御^ご禮^{らい}を^あ御^ご我^{われ}の^{しよ}
代^{しろ}の^{しよ}主^{しゆ}君^{きみ}と^い思^{おも}ひ^ま事^{こと}なり^まの^{しよ}小^{せう}斯^す左^さ迂^いの^{しよ}御^ご身^みと^い成^なる^まの^{しよ}遠^{とほ}く^ま御^ご所^{しよ}へ^あ赴^すけ^りを^あ



山田大僧



仁和寺の
法皇王上を
諫めむるを
官門に立せ
る人

春立

皇極言圖卷之六

十四

争り見捨ちりいふらん小官當年八十を望むもあはれ露命とらふ故御帰存
心毛頭のまゝ老小老る御脚手纏と思召筑紫の随従小召連おまをま生い中
く物思ひい入る此水底身を没しけりとして己小川船入をす小田辰吉慌
て抱れとあ老人の斯程まで思結いむを方望随従小召連させりと願ひる小公由
御承引在。さか免も角もとて御船小乗は春彦大少始げ辰音が好意を謝
とも小船乗移りるふより官人船子小纜を解せ西を臨んで船を支らせり

菅公遺干通明寺木像

播州曾根手枕松之事

斯て御船追風小従ひ八幡山崎なり走過る小日和變て雨をかくと降中斬
く小降増りて菅洩岬も紡績よりを船子の御痛りく思ひ河内國佐田の里
御船を看雨の霽る待々小當所の長真木某菅公御船をりより安き御
船へ入り余りの大雨にての程小某茅屋へ入せり今宵八草の席小一夜を明させ

又と言上るを菅公始をせり警固の官人小此義如何あはれと向せり余苦りず
いより中より辰青春彦官人小を召連の真木小御導をて其家到着り真
木小大少尊敬と御王巻と献り餉を勧まひをかくて管侍を公其深情を謝
しこの當所は何と申せり向り家務各て河内國佐田と呼ひと言上るは
此里より當國道明寺まで程遠れや否と問り家務を各て道明寺へ八
五里むりゆりゆりゆりと言上る菅公曰道明寺の住僧覚寿尼と申す伯
前が都小在一時公勢解糸紡績進と暇あかり今左辻の身とかり程
遠るは此里未一人不殺洗律かり日ゆい黄昏あれを伯母許訪ひし。此更ゆり
てんやと警固の武士願ひのゆい今夜の内むりの御更ゆり苦くまて未
明小還せり御承りゆり菅公始ひり辰音と警固の武士を召連の
御身八賤の竹駕小乗長小御導を各道を遠めさせ道明寺到着り

頃ふと著のひたる是より以前小覺壽尼公菅公左遷の御身と成りて坐すひ
大系孩れ親れひひ身紅涙小法衣の袖を浸しひひる今宵より手光臨
ひひれを夢と許しひひる市の中菅公の御顔を人の余付て言葉より先脚涙
先なる菅公伯母尼公御對面ありて其御無事を祝ひひ配流の身と成へ
と再の拜顔も期しひひ今宵の御暇とのめ糸いと仰れを尼公雨くと泣き
彼唐土の屈原と申ん絶言の為君小疎れ江潭水さるすひひ見ぬ唐國の昔籍
のと思ひまほりふ豈非ひひ今御身左遷の客と成ひひひて人の難面世の憂と
算と悔と眼のひひる涙をひひて又日々素り過ちたり事あら御身を大
君も程なく御後悔在り故洛勅免の詔命下り芽出度旧の位小還りふる期
侍ぶれも尼公年々老て聖具の命も頼れんと願ふ御姿を繪小写しひ
とも木小刻なりとも此寺小遺り歸洛在す追の御堂小朝々小見すひせて老

の心成慰め侍るかと望みのふと菅公有合木成りて御手はく御身の像と刻
ひひるふいと粗造の内小早公の雞の音ひひを敬言固の武士孩れ己小曉小
及び雨も疾霏ひ御名残ハ尽すすひひ今御船へ還せりと言上るも菅公も為
方なく荒木造のす尼公進もひ御別を告むひて立出のすて
啼むこところを急げ雞の音乃ひひぬ里のあられもが那
と詠ひひ終小道明寺と出ひ佐田の里へ還せりひひ此御哥より今
河洲土師村小雞を飼ととと斯て佐田より又船小乗ひひ流小順ひて掛津渡
迎福嶋まで下りひひ西風強く吹出り斯て御船を下り難とて福嶋へ
船を着風の和風を相待り其風待の内小菅公陸上りせりひ其所此処と道造
ひひ融の大臣の都へ潮と運送させり古師を御覽り其辺の森法を通りひ
々小松の葉の露風小吹れて降落御持衣小くまを菅公よりあへて

露と散風小袖も括より都のこけ思ひのついでん

と詠い多り。後小此所小天満宮を造管露の天神と稱し。此御寄小依て号

所たり。俗小あり。又風待小御船を著し。福嶋小御社を建。去程小兩日許

ま。西風止。れを纜を解て御船を出。追風吹續。津路を過急

之もなれ。御船明石の浦小著。當所の駅長小菅公先年續岐の係下。小

節長小許小宿らせ。御懇の御封を下。小。駅長忝。思ひ重。尊敬

種。管侍。今度。船を下。小。長。許。入。小。駅長。菅公の

脚左。迂の義を疾。傳。大。小。孩。れ。愁。れ。た。今。寄。せ。の。ひ。を。せ。て。の

幸と深。愧。ひ。席。掃。淨。て。御座。を。設。請。入。小。尊。顔。を。拜。と。不。覺。の。涙。小

れ。疊。小。額。を。付。少。時。頭。を。上。小。稍。有。て。面。を。起。不。慮。脚。左。迂。を。御。悔。上

流。涕。小。膝。を。浸。れ。を。菅。公。駅。長。を。制。小。一。聯。の。句。詩。を。吟。小。其。御。詩。曰

驛長真敬馬時變改 一梁一落是春秋

駅長是を拜聴して深く感慨涙を落す。然小其夜より大。小。逆。風。吹。出。小。れ

を順風小吹。あ。り。ま。て。と。長。小。許。小。道。留。の。小。更。三。日。の。小。漸。く。風。追。風。り

か。り。も。也。小。船。子。小。其。小。言。上。小。小。菅。公。長。小。別。を。告。て。御。船。小。を。兼。と

る。駅長。の。逆。風。の。十。年。廿。年。吹。續。り。と。初。小。甲。斐。た。小。今。更。別。と。も。悲

と。船。中。の。御。慰。小。と。種。の。物。を。献。り。涙。を。御。見。送。を。か。り。ま。り。物。の。衣。と

ま。ね。船。子。も。早。漕。を。解。漫。た。海。上。小。乘。出。小。帆。を。曳。揚。て。追。風。を。子。せ

御船を走。せ。る。小。駅。長。小。御。船。影。の。小。え。ね。追。足。を。翹。て。見。送。り。進。ら。せ。浮。家

路。帰。り。る。去。程。小。菅。公。小。所。獲。御。船。中。小。浦。山。の。景。色。を。御。覧。む。小。手

續岐の任。小。下。り。の。ひ。時。小。風。景。と。詠。ひ。詩。歌。の。御。詠。吟。有。小。今。夫。小。相。及。て。東。の

旅。小。赴。彼。業。平。小。あ。ら。む。沖。の。鷗。や。都。鳥。小。い。さ。更。向。入。便。も。た。小。胡。地。小。を。と。ふ

菅公已不配所の館へせゆひれを都の官人下吏を御暇を願ひて京へ歸り跡を
り留る者とて八田口渡會其餘言甲斐か下郎三人のこゝに寂莫思召脚註と
ても壁浅間小坂間も同粗少く透間浅汐風もいづれ脚身不凍をれを一時の脚註
離家三四月 落波百千行 萬事皆如夢 時々仰彼
と賦りり宰府人も多折小脚訪ひ来る人も有とも暮く物言はす
多く脚對面もけりむづ引電からふて唯異國へ推移される心地のひき訪
負なる衛鷗の音も脚夢を破る媒となり音信や軒の松風却て脚夢を
種となり方吏都小吏と多の多くして且夕かめち小過せゆひ一時遠方か
煙を脚覽ト

夕ざしの野も山もく煙かげれよりこそと見えたりけれ
まの雲の浮きたよよを思ひて都の空乃とかりし思召

山

山こそれとびゆ雲のくまくる影るるとは猶たのすれぬ
世の憂もと思捨かぐ猶飯洛の期もと思ゆるる命雨の降る日
あめ乃と隠る人のふれをきてしわれぬひるよりもなれ
月乃明りりる夜の脚哥小

うみあつむとく水の底までも清た心を月ごとくさん

野を詠ト

はうのち紫あつる野をあれあれ各ほむ人をまえぬ

道を詠ト

苜萱乃園もろとろとつる人もゆるさぬ道を成々

山を詠ト

あゝ曳乃ろあこたろ小道あれど都へいざと入人のかな

山を詠ト

鶯を詠ト

溪ふくく春のひかりのちとれを雪ふけゆる鶯乃し名

有明月を詠ト

宵の間やとくは空よりとせで心づくの有明の月

誠とく意を詠ト

心づにまこと乃道おろひかを祈むとも神や守らん

右の御哥の意を天道の善小福を与へ悪小禍を下すの理一首の中述

且此一首の御詠を心小持人を貪慾非分の望を發と更は難有御哥

邪慾の為小神を祈る愚昧の族を誠とく神詠なり又一時の御哥

見る石乃おめての塵もふくさるる節の揚枝もつらと

是は京重の言州小竹の揚枝をつら者硯の塵を吹者無実の難を受る

と歎息のひての御哥なり又一日旅馬のらるる御覽ト賦ト御詩ト曰

我為遷客汝来賓 共是蕭々旅漂身

歌抗思量歸去日 我知何歳汝明春

斯詩歌を詠トお付ても御身の不運を悔むを痛く去程小月

日小関守なり御憂愁の中春去夏過て秋も稍立九月十日のちたり

昌泰三年九月十日の夜清涼殿にて菊花の御宴あり時管公も御座

献トのひ待小曰 君富春秋臣漸老 思無涯岸報猶遲

帝右の詩を睿覽なりひて御感の余り小御衣を脱ひて被させ

舞踏して拜領トのひたり其御衣を袂に持ても持せし君の御紀念

常上

常上

乃筭小納め朝夕小拜礼のり此一条とて菅公帝と頼も恨むむさる更と知
足りのり今九月十日なれ去年の今宵の更を思ひ出のりの誠小入界の栄枯定
なく盛衰堂と覆のりが如くたると長教のりのひて作らせり又御侍小曰

去年今夜侍清涼

秋思詩篇獨断腸

恩賜御衣今在此

捧持毎日拜餘香

誠小懐旧の御愁情の程を悼のりまうくるとさぬふ秋の物悲し秋の上風のり秋の下
露のり離小すく虫の音も何と御涙の種のりぬハリ程のり九月十五夜のりのあり

一天雲かく霞て月清明と澄昇のりとと御覽する小都小在のり時殿上の月見の
御宴小侍のひて詠詩作小懐と迷のり兵樂のりのひ今のり盧生のりの夢と成

黄菱顔色白霜頭

况復千餘里外投

昔被采花簪纓縛

今為敗謫州萊由

月光似鏡無明罪

風氣如刀不断愁

隨見隨聞皆慘慄

此秋獨作我身秋

斯御物のりのひも月旦のりと送るを御痛のりりうる抑のり天宰府小都府樓とて
天智天皇の御宇小建のりられのり官舎有又のりト帝の勅願のりして御建のり立有のり一觀音寺

とのり梵刹のり也のり也のり臣公兼のりて觀音と御信のり仰在のり和州初瀬寺の縁のり記のりも自
筆のり小書のりせのひのり程の御更のりたれた御のり糸結のり中のり有のりるのり不出のり門のりとて門を出

一の誓のりと立のりる人を都府樓のりの登のり玉のりを觀音寺へ御佛結のり中のり只のり余所のり小乃
見のりかのりのひ一時不出のり門のりと又のり題のりして作のりらのりせり詩小曰

一從謫居就柴荆

萬此兢兢踏踏情

都府樓纒看瓦色

觀音寺只聽鐘聲

中懐好逐孤雲去 外物相逢滿月迎

此地雖身無檢繫 何為寸步不出行

就中都府樓觀音寺の二聯と唐の白樂天が遺愛寺鐘鼓枕聽香炉

峰雪撥簾看と賦せし對句少も勝ると其頃の博士も感賞せしと云

斯て配所小幽居しより所小其年の冬之首庭前小一夜の内小一株の楪樹生出

う。辰音春彦亦庭を淨むる奴僕の斯と告々小依て兩人の紆リの連立て

庭前のわらわら小実の昨日の無の梅樹兼てより生の如の更の今の植の

樹と公のえすの己の小每枝小營を生のう。辰音春彦奇異の思ひをなしの菅公

小斯と言はれた公も不審のひて見ゆふの兩人の幻のてくもれを不測の思ひ

孰も也とんの小將は是の都の紅梅殿の植のいの御の愛樹の紅梅のかりを

膝を拍て難息のいは是の六我の都の小の多の年の愛せしの楪樹のかりは是の小就す

